

Stage III大腸癌における予後規定因子および術後補助化学療法の効果予測因子に関する研究

1. 研究の対象

1999年から2015年までの間に防衛医科大学校外科で大腸癌により根治手術を受けられた方のうち、術前治療（化学療法、放射線療法等）がなく、組織学的にStage III大腸癌（腺癌）と診断されている方

2. 研究目的・方法

大腸癌は比較的予後良好といわれております。しかし、大腸癌患者数は増加の一途をたどり、日本人の死亡原因の中でも大きな割合を占めるようになりました。とくにStage III大腸癌においては、手術後に補助治療として抗癌剤治療を行うことが標準とされていますが、個々の患者さんによって抗癌剤の効果には差が認められます。そこで、抗癌剤の有効度がどのような要素に影響しているか明らかとすることを目的に、研究を行います。有効な予測因子が得られた場合、手術後の抗癌剤治療の適応決定に役立つ可能性があり、また将来の治療につながる可能性が考えられます。研究期間は平成31年3月までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究は、今後、研究のために患者さんから検体を採取したり投薬をしたりすることではなく、これまでの外来・入院治療での臨床情報（手術の内容、病理結果、手術後の経過、手術後の治療内容等）のみを用いる研究です。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校病院 外科 山寺 勝人

TEL:04-2995-1511（内線 2356）

研究責任者：

防衛医科大学校外科 上野 秀樹